

安全安心

やま と が わ に き

大和川二期地区

(新潟県糸魚川市)

- 計画期間 平成21年度～平成25年度
- 面積 167ha
- 交付対象事業費 291.5百万円
- 市人口 43,352人 (地区内人口 3,851人)

ポイント 子供からお年寄りまで安心して暮らせる、安全なまちづくり

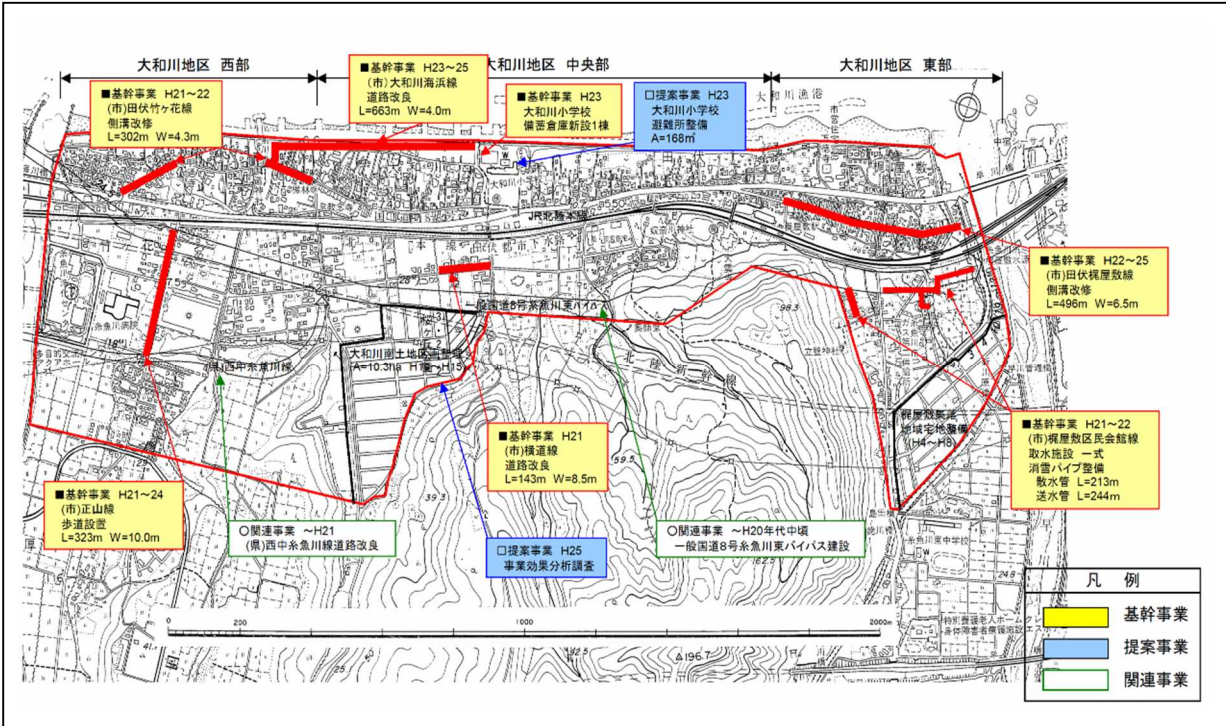
地区概要 安全な居住環境をつくるための道路整備、地域の防災力を高める大和川小学校の機能を拡充した避難所整備により、地域住民が快適に生活できる基盤づくりを進める。

目標 糸魚川市大和川エリアにおいて、道路、避難所等の整備を実施し、「安全に通学、通院ができる生活の道づくり」と「安心して生活するための防災機能の充実」により、美しく快適な住みよいまちづくりを図る。

指標 道路整備による歩行者が安全に通行できる動線の確保、避難所及び備蓄倉庫の整備による要援護者の災害時に安心した避難生活の確保を目指す。

通学路及び公共施設への歩きやすい道路整備率	63% (H20)	→	100% (H25)
災害時要援護者の収容人数	0人 (H20)	→	60人 (H25)

事業内容 基幹事業 (285.8百万円) → 道路 (幅員 4.0m～10.0m、延長 2,385m)、備蓄倉庫 (1棟)
提案事業 (5.7百万円) → 避難所整備 (168㎡)



地区の現況と課題

大和川地区の現況

東西に細長く日本海に面し、背後には丘陵地が迫る狭隘な地形をなし、そこへ南北を分断する形で一般国道 8 号、JR 北陸本線が通過し、さらに現在、一般国道 8 号糸魚川東バイパスや北陸新幹線の建設が進められている。

大和川地区の課題

大和川地区と中心市街地を結ぶ幹線道路の平成 21 年度開通に伴い、自動車交通量の増加が予想されるなど、地域の生活道路において、住民が安全に歩きやすい歩行環境の整備が求められている。

また、同地区一期の住宅、公園などの生活基盤の整備により良好な居住環境が形成されたが、定住を持続させるため、子供からお年寄りまで誰もが安心して生活を送れるように、防災機能の充実が課題となっている。

提案事業の特徴

大和川小学校避難所整備

幼児・老人・障害者などの要援護者のための避難所改修、備蓄倉庫設置の一体的な整備により、非常時の避難所としての機能を強化する。

計画策定プロセス

これまでの計画と事業の実施

糸魚川市総合計画において、市民生活重視の立場に立った市民参画による計画づくりや実施をすることで、市民と行政が一体となりまちづくりを進めるとされている。その基本目標の一つに「美しく快適な住みよいまちづくり」が位置づけられている。さらに H16 年度から H20 年度まで、幅広い年齢層を対象にした 2 種類の公営住宅整備、地域コミュニティ活動の場としての花いっぱい公園整備など、定住促進を核とした、まちづくり交付金事業の同地区一期を実施し、事後評価の中で今後のまちづくり方策を検討した。

地元関係者等への説明会

歩きやすい道路の整備については、道路管理者などの関係機関との協議により道路計画の作成後、地元関係者、地権者への説明会において事業の趣旨説明と協力要請。



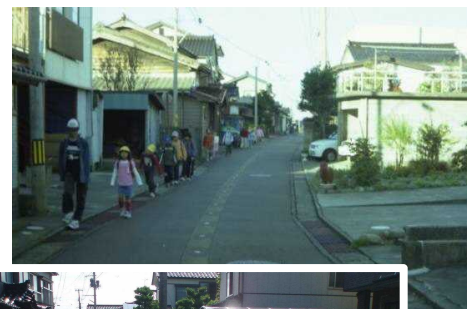
▲当地区の中心にある大和川小学校

▼歩道整備前



▲歩道整備後

▼側溝の上を通学する小学生



▲整備された道路側溝